

学校だより

にしづえ

甲斐市立双葉東小学校 平成21年11月12日号

☆☆好評を博した公開研究会☆☆

文部科学省指定「道徳教育実践研究事業」2年目、並びに山梨県教育委員会指定「小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業」3年目のいずれも最終年度の道徳教育公開研究授業と研究会を、10月29日（木）に開催しました。6月13日には保護者・地域の皆様を対象に全ての学級で道徳公開授業を行いました。今回の授業は研究成果を検証する教師対象の公開授業でした。そのため各学年1クラスとし、保護者の皆様にはご遠慮していただきました。お手伝いをしていただいたPTA役員の皆様を含め約150名が参加していただきました。

ここに当日の授業と代表的な参会者の声を掲載します。「」は資料名、○は道徳的ねらい。

1年3組「くりのみ」（友情・助け合い）授業者：浅川妙子教諭・佐野弘子先生

2年4組「学級えんのサツマイモ」（温かい心・親切）授業者：長谷川佳代教諭

3年1組「電池が切れるまで」（生命尊重）授業者：伊藤義嗣教諭

4年3組「心の信号機」（思いやり・親切）授業者：佐藤栄志教諭

5年2組「一ふみ十年」（自然愛・環境保全）授業者：増坪広夫教諭

6学年「ピアノは待っていた」（尊敬・感謝）授業者：水上幸子教諭・高見澤周平教諭



「授業について、子ども達の日常の指導が行き届いていて、どの授業もすばらしい授業でした。役割演技、総合単元的な道徳学習、根津ピアノを取り上げての郷土学習資料の開発、心メーターを活用した評価、流行である電子黒板の活用、等々。どの授業も内容項目の定着を目指した子ども達の思いを大切にされた授業でした。」

（山梨県教育委員会指導主事）「やはり研究会ですから、授業だけ無難にやっつけてしまおうというようなかたちでなく、主張や問いをもって授業をし、参観者と話し合う機会があるということは大事です。授業後の検討会の設定があるということ自体が、教育研究への真摯な姿勢を表すことにもなっていたと思います。例えば、講演会も確かに価値はあり、授業内容と連動したものなら良いのですが、甚には、『授業十人寄せパンダ的講演会』でお茶を濁すような公開研究会もちらほらとある気がします。そういうレベルとは真逆の密度の高い研究会でした。」（甲斐市小学校教諭）

紙面の関係上学校全体に対する意見だけ掲載しましたが、各クラスとも大変お褒めの言葉をいただきました。この研究は「自尊感情を高め、道徳性を伸ばさせる子ども達の育成を目指して」行われました。今後は本研究で培った成果を生かし、ますます深化・発展する『心の教育を中核とした双葉東小学校教育』推進に取り組んでいく決意をしています。引き続き地域や保護者の皆様方のご理解ご協力をお願い致します。

白砂先生に感謝する会

11月5日（木）午後1時50分から体育館において「白砂先生に感謝する会」を行いました。会は児童会からの感謝の言葉や花束贈呈、そして全校合唱で感謝の意を表しました。市からも市長代理の上野教育長様から感謝状を贈呈していただきました。白砂先生からは『乙女の祈り』『花の歌』の演奏をしていただいたり、ピアノ改修への熱い思いや、取り替えたハンマーやハンマーフェルトについてのお話をしていただきました。当日は、子ども達はもちろんのこと保護者・教職員、次長さんはじめ教育委員会の方々、登美中学校時代の教

え子、同窓会の方々にもお集まりいただき、全員が白砂先生のお話に耳を傾けました。校長室に戻ってきた時の白砂先生ご夫妻の満足そうな横顔から、この会の目的が達成されたことを確信できました。

白砂先生や本校に残っている根津ピアノについては、何度も取り上げていただいた山日新聞の報道でご存じだとは思いますが、白砂先生は約60年前双葉東小学校の前身である登美小学校にあったこのピアノに出会いました。ピアノは昭和8年、甲州財閥を代表する根津嘉一郎氏が県内の小学校に寄贈した200台の内の1台です。それ故、根津ピアノと称されます。現存するものは双葉東小学校のピアノの1台を含め数台しか残っていません。昭和22年登美中学校の代用教員として採用された白砂先生がこのピアノと出会うことによって、この感謝の会までの物語も生まれたことになります。

白砂先生は昭和4年現在の北杜市白州町で生まれ、現在80歳です。東京都北赤羽に在住です。代用教員時代この根津ピアノに出会い、ピアノのすばらしさの虜となり、やがて音響学の道に入ることになります。そして東京芸術大学に進学し、そのまま講師として大学に残り、退職後国立音楽大学教授とされます。現在も聖徳大での講義を行っています。今年の2月26日に来校し、60年ぶりのピアノとの再会を果たしました。そして、改修を決意し、4月23日から9月まで、ほぼ毎週木曜日にご夫妻で来校し修理をなさっていただきました。



この偉大な行為に対し、学校として何が出来るか、何をすべきか苦悩の中で4つのことを方向付けました。一つはこの出来事を広く世間に知らせ称えていただく。二つ目は教材化し授業公開をする。三つ目は甲斐市から感謝状を出していただく。四つ目は全校児童による感謝の会を開催する。としました。その結果、甲斐市長様をはじめとし、教育委員会の全面支援のもと、教職員・全校児童総力を挙げて4つとも全て実現することになりました。感謝がこれで全てとは決して思っていないが、後は子ども達の心に、白砂先生の魂を傾けた行為に対する感謝の念が根付き、今後の歩む人生の中で必ず生かされるものと思っています。そしてこのピアノを、双葉東小学校の宝として大切に使用していくことが、学校としての恩返しになるであろうと考えています。平日にもかかわらずご参加していただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。

昨日は『白砂先生に感謝する会』に参加させて頂きありがとうございました。

自分の人生を左右する一つの出会い・・・自分にとってのそれはいったい何だったのかな・・・などいろいろ考えさせられました。白砂先生が東小の子ども達に残して下さった貴重な思い、子ども達は心の中のどこかに残しながらこれから大きくなっていくんですね。

私は子どもに何を残してあげることが（伝えることが）出来るのか、そう思いながら白砂先生のピアノを聴きました。“鳥肌が立つ”演奏を聴く機会は今までも何度もありましたが、見つめるだけで心に響き、自然に涙がこぼれるそんな演奏はありませんでした。昨日の白砂先生の演奏は、まさにその自然に・・・でした。

ピアノがとても静かに喜んでいるように思えました。あのピアノはこれから東小でまた新たに子ども達を見守っていてくれるんですね。八十歳の白砂先生の演奏の後の、全校合唱での小学生のあの女の子が心を込めて弾いている姿に、再び涙々でした。本当に心洗われるひとときでした。貴重な体験をさせていただき本当に皆様に感謝です。ありがとうございました。

4年生保護者



白砂先生がピアノと出会い
子どもたちはその白砂先生と出会い・・・
すごいですね
人のつながりというか・・・
ありがたいです